

令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果 ー分析から見てきた成果・課題と今後の取組についてー

区 名	西淀川区
学 校 名	香簾小学校
学校長名	福井 淳也

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和7年4月17日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数・理科）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数
- ・理科

(2) 質問調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・香簾小学校では、第6学年 31名

令和7年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

平均正答率は、国語64%、算数51%、理科53%であった。全国平均との比較では、国語－2.8ポイント、算数－7ポイント、理科－4.1ポイントであった。大阪市平均と比較すると国語では－1ポイント、算数では－7ポイント、理科では－2ポイントであった。

平均無回答率については、全国平均・大阪市平均に比べ、すべての教科において低く、最後まであきらめず問題に取り組む姿勢が見て取れる。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

〔国語〕

学習指導要領の内容で、【思考力、判断力、表現力】では「話すこと・聞くこと」において全国比+0.4ポイント、大阪市比+2.7ポイントであった。「読むこと」においては、全国比+3ポイント、大阪市比+3.6ポイントであった。しかし、【知識及び技能】では「我が国の言語文化に関する事項」において全国比－16.7ポイント、大阪市比－15.4ポイントで、【思考力、判断力、表現力】では「書くこと」において全国比－13.6ポイント、大阪市比－10.8ポイントと、大幅に下回る結果となった。

〔算数〕

全ての領域・観点において、全国平均・大阪市平均を下回る結果となった。特に学習指導要領の領域「変化と関係」では全国比－16.6ポイント、大阪市比－17.3ポイントであった。基礎基本の知識の習得が喫緊の課題である。

〔理科〕

学習指導要領の領域でB区分の「地球を柱とする領域」では、全国比+3.3ポイント、大阪市比+6.2ポイントであった。A区分の「粒子を柱とする領域」では、全国比+0.3ポイント、大阪市比+2.2ポイントと僅かながらそれぞれの平均を上回った。しかし、特にA区分の「エネルギーを柱とする領域」では、全国比－14.2ポイント、大阪市比－10.2ポイントと平均を大幅に下回る結果となった。

質問調査より

「人が困っているときは、進んで助けてあげますか」の項目では、96.8%の児童が肯定的回答をしており、全国比大阪市比ともに上回った。地道なキャリア教育の積み重ねが功を奏し、自己有用感が高まってきていると言える。また、「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」の項目では、83.9%の児童が肯定的回答をしており、特に、最も肯定的な回答は58.1%で、全国比+15ポイント、大阪市比+18.7ポイントと高い結果であった。教科担任制の取り組み強化や学年部主任制に伴って多くの大人に接することで、児童の安心感が育まれてきている。

今後の取組(アクションプラン)

・国語科では、令和4年から研究教科に据え「豊かな言語力・表現力を養う指導法の研究(R4)」「読める、わかる、使えるを目指した身につく国語の習得のための指導法の研究(R5)」「深い読みから表現へ(R6)」をテーマに取り組んだ。朝の集会時には作文披露の場を作り、学習したことを作文や普段の生活に活かせるよう取り組みを継続した。さらに今年度は「読む」と自分の思いを「表現する」がつながることをめざし、研究主題を「学びをつなぐ、課題をつなぐ」と設定し、学力向上支援チーム事業スクールアドバイザーの助言のもと授業改善を行い、全教員で児童の国語力の向上をめざす。

・算数科では、計画的に習熟度別少人数学習の実施を行っていく。その中で、計算練習の反復等により基礎学力定着をめざす。また、具体物・半具体物を動かしたり、端末で操作をしたりノートに書いたりして、様々なアプローチにより学びが深まり、その過程で意見を交流したり他者との意見を比較したりすることで、児童が主体的に学習できるよう授業改善を進める。

・理科では、自然との関わりを大切に、理科的な見方・考え方を働かせ、見通しを持って観察・実験を行う体験を重視した授業づくりや観察実験の充実を図る。

・すべての教科を通してICTの活用はもちろんグループワーク等の交流を大切に、デジタルとアナログを融合させ、児童が主体的・対話的に学びに向かうことのできるハイブリッドな授業研究に取り組む。

・携帯電話やスマートフォンを含むICT端末の家庭での活用促進にあたり、情報モラル教育の一貫としてサイバー防犯教室を実施し、適切な活用を促していく。